

平成 28 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策 定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月9日実施)	総合評価(3月22日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>基礎的・基本的な知識と技能の習得を図るために教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>学校行事の活性化や外部教育力の導入、単位の互換性を利用した幅の広い学習方法を検討し主体的な行動の促進を図る。</p>	<p>教育課程と指導内容を確かな学力の定着と系統立てた系列科目の精選の観点から編成し組織的な授業改善に取り組む。</p>	<p>1 共通科目における定期テストを共通化し確かな学力の定着のため組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>また必修科目や系列科目の精選と指導計画を組織的に検討する。</p>	<p>定期テストの共通化率と検討内容は十分であったか。確かな学力のため、組織的に検討できたか。</p> <p>卒業に必要な履修科目と単位数、授業時間の質と確保、系列科目の精選が十分に検討できたか。</p>	<p>共通科目における定期テストの共通化について、教科・グループで組織的に検討をすすめ、数学・英語・保健・情報は100%、国語・社会・理科については、一部共通化とした。</p> <p>29 年度入学生の必修科目や系列科目の精選等についてはおおむね決定することができた。</p> <p>今後、指導計画の検討を組織的に進めていく。</p>	<p>定期テストの共通化について、前期は中間試験 31 科目中 21 科目、期末試験 34 科目中 23 科目、後期は、中間試験 33 科目中 22 科目、一部共通が 5 科目であり、適切な評価に向け、さらに検討していきたい。</p> <p>卒業に必要な履修科目と単位数については、29 年度入学生から 80 単位履修とした。授業時間の確保については 32 週分にとどまっているが、平成 30 年度からは 35 週分が確保できる予定である。</p>	<p>魅力ある総合学科を目指し、新しい手立てを次々と考えていることがわかり、またその成果が出ていると実感した。自己有用感を持ち、自信をもって社会を歩んでいくため、しっかりとした学力を付けることは重要である。授業改善の取組をより大切にしてほしい。</p> <p>定期テストの共通化や系列科目の精選をすすめ、年次進行型に合わせた運営ができていくことは評価できる。授業時間の確保も達成しつつある。一部実行できなかった部分は、原因・課題を分析し対策につなげてほしい。</p>	<p>本校のミッション、学校目標の実現に向け、年次進行型総合学科のあり方を検討した。H29 年度入学生の教育課程について、組織的に検討をすすめ、おおむね決定できた。</p> <p>共通科目の定期テストの共通化については、一定の成果が得られた。適切な評価に向け、さらに組織的に検討をすすめる。</p> <p>授業時間の確保について一定の方向性が得られた。</p>	<p>新たな教育課程による生徒を迎え、現課程の生徒との学務上の課題を整理しながら、より魅力ある総合学科の実現に向けて取り組む。</p> <p>定期テストの共通化、授業時間の確保等の課題解決に向け、継続して組織的に取り組みながら、授業改善を続け、確かな学力の定着につなげる。</p>
2 (幼児・児童・) 生徒指導・支援	<p>校内のルールを遵守させることで授業に集中させ規範意識を身につけさせる。</p> <p>部活動加入率を上げる工夫を行い責任感や連帯感の涵養を図る。</p>	<p>規範意識の涵養を図るため指導体制を組織的に構築し、一丸となって指導にあたる。</p>	<p>全ての教員が規範意識の向上を目指し意識して授業や生徒指導にあたる。</p>	<p>授業態度が向上し、授業不要物指導、頭髮服装指導等の結果校内のルールが遵守され、規範意識が向上したか。</p>	<p>生徒が目的意識を持って授業に取り組めるよう効果的な学習方法を追求し、指導にあたる。</p> <p>毎授業、授業不要物を片づけるように指示し、指導票による指導を行った。頭髮・制服指導については、月毎に指導週間を設け指導した。指導票による指導人数は昨年に比べ減少傾向(77件 65件)にあるが、特別指導件数は増加(33件 61件)した。</p>	<p>学習効果の向上の検証方法についてさらに検討するとともに、生徒が目的意識を維持できるように時間割編成を検討したい。</p> <p>全ての職員が共通認識を持ち、統一した指導方針で指導にあたる必要がある。次年度以降も、授業や学校生活の様々な場面において、組織的に対応し、生徒の規範意識を高められるようにしたい。さらに、SNS やインターネット使用に学校の方針を作成・周知し、生徒の注意喚起を行っていく。</p>	<p>学校全体が一丸となって取組み、粘り強く指導、努力を継続している結果が出たと思う。新たな課題はあるが、形に心が伴うことで、鶴総の未来は明るいと感じる。</p> <p>授業の様子を見ても、非常に落ち着いている。以前のような異装がなくなっている。バス・電車内のマナー、自転車の乗り方の指導をさらにすすめてほしい。</p> <p>SNS については、個人のモラルによって凶器にもなるので、情報リテラシー教育をすすめてほしい。</p> <p>学校から頭髮・服装指導の都度、メールで情報があり、家庭でも声かけができ、ありがたいと思う。</p>	<p>頭髮服装検査、授業不要物の指導等の成果が出ているとの評価があり、指導方法をさらに工夫し、職員一丸となって指導を継続する。</p> <p>昼休みの外出については、原則禁止であったが現状は異なっていた。H29 年度は制限を強化し、H30 年度には全面禁止する方向である。</p>	<p>自転車の乗り方についても、日ごろから指導しているが、より効果的な指導体制を検討するとともに、スクエアードストレートなどの研修を実施し、生徒への注意喚起を行う。</p> <p>インターネットの利用については、ガイドラインを作成し、生徒への周知を図り、学習活動全般の中で指導していく。</p>

3	進路指導・支援	<p>ガイダンス科目の内容の見直しを行い生徒自らの意識の変容を図り進路未決定者を減らす取り組みを行う。</p> <p>キャリアカウンセリングの研修を行い教員が適切な支援を行えるようにする。</p>	<p>適切な職業観や勤労観を育成し、また社会人として適応できる能力の育成に努める。</p>	<p>インターンシップや校外講座、校外学習などを利用し積極的に社会に関わろうとする能力の育成を行い、進路活動につながる意識付けを行う。</p>	<p>インターンシップ・校外連携講座・校外学習などを利用した生徒は増加したか。また、勤労観をもって進学、就職活動を行う生徒が増加したか。</p>	<p>校外講座(22件 15件)、技能審査(55件 45件)、ボランティア活動(0件 3件)の単位認定を行った。(昨年度比)</p> <p>夏季休業中の1年次進路活動としてオープンキャンパス(74.1%)、インターンシップ(4.6%)、夏季連携講座(2.1%)の校外活動を実施した。</p> <p>就職活動に取り組む生徒数が増加し、内定数も昨年に比べ上昇(35人 46人)した。サポートティーチャーを活用して勤労観を高める指導を行った。</p>	<p>生徒は単位認定されることを目的とする傾向がある。自らの興味や関心に基づき、主体的・積極的に参加することを促すよう働きかけたい。</p> <p>進路活動に消極的な生徒は減少したものの、いまだ一定数が存在する。丁寧な指導を継続する。</p>	<p>キャリア教育の充実によって、進路未決定者が激減したことはすばらしい。自立を目指した教育をさらに充実させてほしい。</p> <p>課題研究発表会や未来探索発表会では、テーマの選定・分析・結論まで自分で考えさせる教育の成果が現れ、すばらしい内容であった。今後は卒業生評価を定期的に行うと良い。</p>	<p>校外講座、技能審査等の単位認定は昨年比減少したが、コンソーシアムサポーターの活用を通じ、充実したインターンシップを実施することができた。</p> <p>就職活動に取り組む生徒数が増加し、内定数も増加したことにより、全体として進路未決定者が昨年比でも減少し、ここ2年で大幅な減少となった。</p>	<p>総合学科の特色を生かし、生徒への情報の提供や実施時期を改善し、学校外活動の充実を図り、校外講座等への参加生徒数を増加させる。</p> <p>継続してサポートティーチャーを活用し、就職活動に取り組む生徒を支援し、進路未決定者をさらに減少させる。</p> <p>課題研究、未来探索等の授業を通して、課題解決能力、プレゼンテーション能力の育成を充実させる。</p>
4	地域等との協働	<p>近隣の小・中学校との交流を図り、地域での協働を推進し、信頼される学校づくりを進める。</p>	<p>近隣の施設や小・中学校と生徒が交流することやまた地域での協働を通して自己有用感を持ち社会に寄与する意識を育む。</p>	<p>近隣の施設や小学校や中学校にボランティアとして交流し、児童・生徒等の支援にあたる。また小学校や施設等で体験活動を行うなど地域との協働を図る。</p>	<p>交流内容や回数は増えたか。行った生徒の変容や地域との連携は深まったか。</p>	<p>1年次、部活動生徒による学校周辺の清掃を行い、地域貢献に関心を持たせる機会とした。</p> <p>平安小学校に多文化交流ボランティアとして、生徒が定期的に参加し、自己有用感を育む結果となった。</p> <p>YMACA 保育園の運動会、クリスマスイベントに生徒がボランティアとして参加した。</p> <p>和太鼓部が新たな地域に対するイベントに参加し、活躍の場を広げた。</p> <p>潮田中、市場中に職員が授業研究のため数回訪問した。</p>	<p>地域貢献に対する意識の継続性を高め、生徒の精神的な成長を図りたい。</p>	<p>地域の方々と学校との連携がとれるようなイベントを積極的に実施している。生徒達が地域社会の一員であることを意識するようになってきていると感じる。</p> <p>生活科の授業での高校訪問、国際教室へのボランティア参加など非常にありがたい取り組みであった。地域との交流は鶴見総合の良い伝統のひとつである。より深まっている実感があり大変うれしく思う。</p> <p>近隣の学校の中で高校生は最年長。地域と関わることで社会の一員であることを自覚するよい機会だと思う。</p>	<p>本年度より、生徒の近隣小学校国際教室での学習支援、小学生の校内での生活科の授業など、新しい連携の他、近隣中学校への職員の研修参加、近隣保育園との行事交流などを着実に実施した。</p> <p>今年度新たに、PTA主催でクリスマスコンサート、獅子舞などを、生徒の成果発表の場として地域開放し、実施した。</p>	<p>新規で実施した地域連携・交流行事等を改善、発展させ、生徒が地域の一員である意識、自己有用感をさらに高めていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>教職員の資質の向上を図る取り組みを行い、課題解決に向けて組織として対応する仕組みを構築する。</p>	<p>教職員の資質の向上を図る研修を定期的に行う。</p>	<p>必要に応じたグループ編成を行うとともに、職員研修を充実させ、また総合学科教育研究会で行う夏の研修会も新着任者の研修とする。</p>	<p>適切なグループ編成ができたか。また研修の延べ回数は適切であったか。内容は資質の向上につながったか。</p>	<p>グループの業務を見直し、適切なグループ編成を実施した。</p> <p>全体で行う研修を15回(事故防止研修、AED研修、生徒の規範意識の向上を図る研修、発達障害児の人権に関する研修、メンタルヘルス研修・防災研修等)実施した。また、個別のグループでの研修を4回(教育相談担当、2校目までの経験者対象、総合学科研究担当、外国人支援担当)実施した。</p> <p>新着任者研修の一環として、8月の総合学科教育研究会研修を位置づけ実施した。</p>	<p>ネットワーク管理、私費会計等の課題に適切に対応できるよう、グループ編成について検討を継続する</p> <p>外部講師による、より効果的な構成員による研修を工夫するとともに、質の向上を図る取組を行い、その評価も行っていく。</p>	<p>人柄、物の考え方、価値観は学校生活の中でふれあう大人(教職員)の姿勢による。様々な教育活動を通じ、自尊感情を育て、自信を持って社会へ巣立っていけるよう、教職員の皆様にさらにがんばってもらいたいと思う。</p> <p>経験の浅い教員は今後も増加傾向であり、学校外、学校内研修、OJTを組合せ人材育成に力を入れてほしい。</p> <p>教職員のレベルアップが生徒の指導に形となって現れている。そうした点が学校評価向上につながっている。</p>	<p>信頼される学校づくりのため、学校管理の基盤となるグループ業務を強化させる人的配置や業務の精選を行った。(私費会計、備品管理等)</p> <p>職員の資質の向上を図る研修を、全体のみでなく、個々の必要に応じ実施することができた。</p>	<p>専門性が必要となる業務において、人材育成を図る取組を行う。</p> <p>全体研修と対象職員を明確にした研修をバランス良く組合せ、資質向上につながる工夫を継続する。</p>